# 問 子どもたちのため教育支援センターを 教育長 今後の研究課題にしたい



谷口（たにぐち） 武彦（たけひこ） 議員

孫が何を話すか
分かるようになり
毎日うれしい

## くんねっぷ学で町に愛着を！

**問** ふるさと教育「くんねっぷ学」を通じて、どのように学習に生かしているのか。

**教育長** スクールサポーターや学校応援団の企業や団体、ＰＴＡなどに協力をいただき、また、学校間交流も行いながら、児童生徒の学習活動に生かしている。

**問** 中学校と高校の農業学習など保護者や地域住民の協力により成り立っている面が大きいが、協力者の固定や負担の偏り、新しい人材の確保などの課題もあり負担も大きいと思うが、費用面の検討も含め今後無理なく続けられる協力体制をどのようにに整えていくのか。

**教育長** 本町には個人で60人、団体で12ほどのスクールサポーターがおり、学校支援などに協力をいただいている。

スクールサポーターの固定化は否めない事実であり、今後他の保護者などにも協力要請をしていきたい。



訓子府中学校と訓子府高校の合同農業学習

## 不登校児童生徒の声を聞いて！

**問** 登校が難しい児童生徒一人一人の状況に応じて支援を行い、安心して相談できる体制や学びを継続できる環境を充実させる支援のため「教育支援センター」の設置が最近多くなっているが考えは。

**教育長** 本町も、少ないが実際に不登校の児童生徒はいる。

対応としては、教育支援センターという名称ではないが、保健室登校、それから必要であれば公民館などで本町の教育専門員などが対応することを学校側に伝えているが、今のところ利用はない。

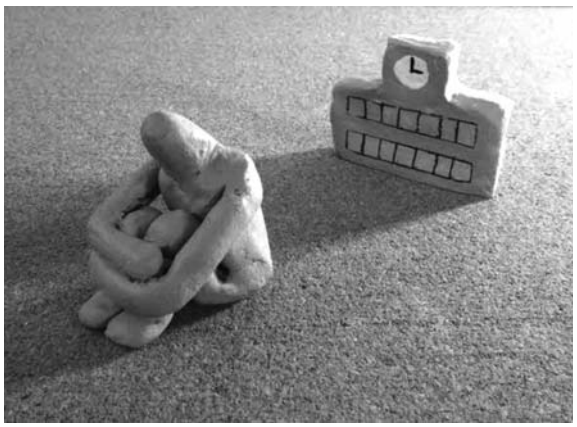
改めて教育支援センターの設置は今後の研究課題としたい。

**問** 子どもの面談、別室登校や支援センターでの学習支援、担任やスクールカウンセラーとの連携、必要に応じた家庭や関係機関との橋渡しを行う「不登校支援員」の配置も最近増えているが、本町の考えは。

**教育長** 不登校対応としては、今年度から運用している「子ども家庭センター」の対応になるかと思う。学校の先生、教育委員会、福祉保健部門の方にも入っていただき、不登校児童生徒に対してどういう対応をしていけば良いかを情報共有する。



関係機関が集まって年に3回ほど会議を開き、子どもたちと保護者に寄り添った対応をしていこうと考えている。



増えている不登校児童生徒への支援を

谷口議員の一般質問を視聴できます